社說

官吏任免の標準

内閣員の更迭と共に次官局長地方官等も自から任免せらるゝの例にして其任免の標準は一に黨派の異同に在るもの〜如し某は何派の系統を引くが故に用ひらるゝならんとは世人の豫言する所にして其標準は大抵的中するの常なり蓋し政黨政治の世となれば黨員が首領と共に進で官嚢を爲り而して其官吏が首領の落路と共に斥けらるゝは自然の數にして毫も怪むに足らざるも我輩に堪へざるは聊か望む所なきを得ず曾て記したる如く我内閣の壽命は何れも甚だ永からずして或は一年にして倒れ又は二年に滿たずして更代するの例なれば斯る頻繁なる變動に伴ふて以下の官吏も進退せざるを得ざるに於ては其混雜の爲めに自から事務の澁滯を來すと共に何時免職も計る可らずと雖も何れも落付て勉強する者なかる可し人民の甚だ迷惑する所にして現に北海道の人民が長官更迭の風說を聞て斯の如く屢々交代しては官廳は恰も旅舍の如くにして到底拓殖の進歩を期す可らずとて留任を歎願したるの一事に徵しても事情を察するに足る可し然かのみならず人の官吏となるは其腕前を示して名譽を博するか否らざれば俸給を得て衣食の資に供せんが爲めなり然るに僅か一年か二年の壽命にては營業として引合はず又功名を立つるの遑もなし少しく氣の利きたる人物は決して官海に近寄るみとなかる可し左れば官吏の系統を亂して之を任免するが如きは此際姑く慎むべし〜して別に躊躇の標準を求めざる可らず官吏の中には今尚は老朽のもの少なからず或は病氣の際、濃法醫に依賴し又は藥獻を信ずるの類もなきに非ざる可し近年教育の進歩と共に人民の思想も大に開化したるのみならず不完全ながら鐵道電信は至る所に通じて恰も人に羽翼を生じたるが如く昔し一日の用を一時間にて辨じ十日の仕事を一日に仕遂ぐるの時節と爲れり此人民を御するに僅に孔孟流の教を受け十里の往復に數日を費したる時代に養成せられたる舊人物を以てして果して扞格なきを得るか特に新條制の實施も近きに在り外國人も遠からず内地に雜居して商賣工業を行ふみとならん之を支配するに東洋流の人物を以てして能く衝突なきを得るか少年時代の古靴を脱出して用ひんとすれば形小さく革硬くして穿つ可らず撓ひて穿たんとすれば或は踵を擦り剝き指を傷めて結局に堪へず舊人物を以て新人民を支配するは猶ほ新の如し靴に不如意を免れざるなり固より人の智慧は年の老少を以て分つ可らざれども學問教育は近年發達したるものなるが故に新智識は後進に多きの常にして活潑の氣力も亦少年に在るは爭ふ可らざる事實なり左れば若し少を取るは今日の急務にして現に專門の如き官職なる官生の進むする所に非ずとして久しく古風なる人物の手に在りしに新事情は新智識を要し時世に適應する實社會に入りたる其數樣を見れば却て老練人に勝るのわきて工業上の術人は殆んど無色なるが如き事に關しても新人物の腦に無きに如かず人物の仕事は新智識の進歩に伴ふて進歩し新人物の進歩に伴ふて進歩し人手、木石を使ふの必要を見る可し少壯活潑敏捷にして古老は優柔不斷なり一は馬の如くにして一は牛に似たりとすれば牛を廢して馬を取るみそも滯を疏通する一法なれば某は前政府の用ひたる人なれば悉く可し某は何黨の出身なるが故に用ふ可らずとて宅色に依て任免するが如きは其弊に堪へず官吏の標準を老少の上に置て遠慮なく新人物を採用せんみとを望むものなり

雜報

○陸軍

東京鎮臺兵士旅團長陸軍少佐　本庄遺三
遞信官長高等官　内田嘉吉
國語學校教授　大槻文彦
第二高等學校教授　渡邊寧
同　依願免本官　上月十五日

○外國勳章受領佩用允許

伊太利國王冠第三等勳章　海軍大佐　東鄕平八郎
同　海軍造船大監　宮原二郎
伊太利國王冠第五等勳章　陸軍砲兵少佐　瀨井甲子郎
同　陸軍歩兵大尉　野津貞武
安南國皇室第四等勳章　海軍大佐　鄕誠之助
同　陸軍歩兵大佐　田村怡與造
大不列顛國勳章「ユニヴァーサー」記念章（以上一月二十七日）
同　陸軍歩兵大佐　田村怡與造
支那國皇室第四等勳章　海軍造船大監　高山保鄕
同　海軍機關大佐　柴　軍鄕
伊太利國王冠第三等勳章　特命全權公使　林　董
同　外務次官　小村壽太郎
佛蘭西國勳章「ユニヴァーサー」記念章（以上二月五日）
同　特命全權公使　中田敬義
同　外務次官　井上馨之助
同　外務大臣　大隈重信　西園寺公望
同　文部大臣　菊池大麓
同　外務大臣　大前　恩議
同　外務次官　川上俊彦
同　陸軍歩兵大佐　田村怡與造
同　陸軍少將　瓜生外吉
同　陸軍大佐　東鄕平八郎
同　陸軍歩兵大尉　由比光衛
同　陸軍少將　山田顯義